



郡山の嶽に村人から「神の山」と言われた上宮嶽があります。山の頂上にむかし熊野権現があり、お坊さんたちの修行の場だったそうです。ここには昔から鹿や猪が住んでいて、参拝者はよく出逢うので、この鹿たちを「神の使いをする動物」として大切にしていました。

ある時、となり村で、収穫前のサツマイモ畑に鹿や猪が群れで現れ、豊作を喜んでいた矢先に、荒れ放題となったため、村人の怒りが爆発しました。神の山の鹿や猪の仕業だと思い、「人間が飢え死にする、退治しよう」とか「神の山の動物は殺してはならぬ」などの問答が繰り返された後、古老がはやる若者たちを戒め、何とか振り上げたこぶしをおさめさせました。そんな中、我慢できない一人の若ものがとうとう猟に出かけます。

大岩の背に隠れ、鹿たちが餌を求めて出かけるのを待ちました。やがて鹿たちが頂上から降りてきて、若者が鉄砲の照準を合わせ、撃とうとしたとき、後ろから猪の一団が若者目掛けて突進してきました。猪は若者を牙にかけ、けちらし、踏みつけ若者は岩陰で絶命してしまいました。その日の昼過ぎ、若者がいないと気付いた隣村の古老たちは、狩に出かけたことに気づき、神の山に探しに行きました。その入り口につくと、どうしたことでしょう。大鹿を中心に、ひとなつこい目で村人を迎えています。後についてこいと言わんばかりに、振り返り振り返りしながら山頂に向かって登り始めました。大岩の前まで来ると鹿は立ち止まり、やがて山奥に消えていきました。隣村では、若者のお葬式を済ませ、神の山の鹿たちの仕業でないことを知り、いつも以上に「神の山」として尊ぶようになっていきました。秋深まるころには、鹿のなく声が聞こえるそうです。

ニュース 八重山で風力発電!?



限りある地下資源に頼り切った生活からの転換を迫られている現在、太陽光発電や風力発電などの再生可能エネルギーも注目されています。その中の「風力発電事業」が郡山八重山地区で計画されているようです。(鹿児島市HP 環境保全 環境影響評価 参照)

遠くから見ると、雄大な姿ですが、近くで見るととてつもなく大きく、羽が廻るときの音もするそうです。その発電機、9基を設置する計画地が、私たちの地元の「八重山」のようです。八重山は、春先からハイキングを楽しむ市民の皆さまや動物たちにとっての住処でもあります。また、鹿児島市民の飲料水の源「甲突川源流」であり、「棚田」もあります。

再生可能エネルギーの必要性は強く感じながらも、この地への設置計画に反対する動きもあるようです。(詳しくは、八重山こいやまを守る会 鮫島さん 080-4314-1121まで) 持続的な地元の電力確保も、地元の自然環境や水資源を護ることも、地域環境を変わず守ることもすべて大切です。



新しい仲間をご紹介します

昨年、高校卒業して入社した橋元に続く、若者が入社しました。20.23歳です。社会経験、技術共にこれからの人財です。叱咤激励をお願いします!

名前：池田空輝 (いけだそらき) 趣味：カラオケ・将棋・ゲーム
抱負：大学を卒業し、4月から新社会人となりました。これまで育ててもらった地域への恩返しのつもりで、精一杯仕事に励もうと思います Σ(・ω・ノ)!

歩兵



名前：一氏佐喜 (ひとつじさき) 趣味：温泉
抱負：地域の方々が不自由なく過ごす、あたりまえの生活を支えるために、日々学びながら精一杯頑張っていきます。

名前：宮里 黎 (みやざとれい) 趣味：サッカー・洗車
抱負：未経験の職種ではありますが、少しでも早く仕事を覚え、自慢の体力を生かし地域の方々の快適な生活を手助けできるよう精一杯頑張ります!
☆ 似顔絵は妻作です♡



かたいもんそ

平成15年5月創刊 「かたいもんそ」は、<http://bunka-inc.jp>にてご覧いただけます。64号は令和4年6月1日より配布開始しています。

梅雨入り、暑い暑い夏と続く季節になりました。いつも弊社社員がお世話になりありがとうございます。後ろが見えないだろうとわざわざ誘導して下さる方、工事が重なっても「お互い様」と譲って下さる地元業者さん、枝払い等お気遣いを頂くお客様のおかげで、新しく従事する社員も専念できています。

昨年の高卒者採用に続き、今年4月から学卒者2名も新しく仲間入りしております。1名は女性で、現場従事予定ですので、訪問の際はよろしくご指導ください。また、従来からの本誌制作責任者も担当が変わりましたので、重ねてよろしくお願いいたします。

さて、会社は「生活と家族を委ねる社員・地域の公器」であることを心得ており、社員や家族のために持続することが求められます。持続を担保するものが利益であり人財です。その人財も長くお世話になる社員の定年が近づいていることから、若い人財への経験や技術継承期間と考へ、若手の採用を進めています。訪問する社員の担当交代等も含めまして、これまで通りのご愛顧と引き続きのご指導をお願い申し上げます。

最後に、世界情勢の影響で、仕入れ材や消耗材で値上げが続いたり部品品薄状況が弊社にも迫っています。すぐに価格転嫁をする予定はないですが、処置に時間を要する最新型の機種に限定して、値上げのお願いをすることを検討しています。その際は、改めてお願いいたしますのでお含みおきくださいませ。



社長:土屋要九

教育 研修 鹿児島県保全協会実施 新入社員研修会

4月7日、(公社)鹿児島県環境保全協会にて講義を受けました。環境保全協会は、鹿児島県の生活環境の保全及び公衆衛生の向上を図るため、浄化槽法に基づく法定検査を実施するとともに、県民に対する浄化槽の正しい知識の普及に努め、浄化槽に関する知識の向上と浄化槽の施工・維持管理の適正化を図るために設立されています。

浄化槽の基本から点検、検査について学び、処理水の水質検査(分析)を行う部屋では、分析方法や設備を見学しました。新入社員2人は、説明を受けながら目を輝かせており、これからの活躍を感じさせる真剣な姿勢でした。新入社員教育・研修の一コマです。



ボランティア 公園遊具・水回り機器点検

4月16日、鹿児島市管工事組合が市内630箇所の公園で行っている、毎年恒例のボランティア活動に参加しました。弊社では、11箇所の公園の点検活動を行い「遊具の点検」「トイレの水回り機器点検及び側溝の清掃」を行いました。

ゴミの量も毎年少しづつ少なくなっているように感じます。公園を利用する方々のマナーが良くなっていると思います。また、遊具についてもネジの緩み等の修繕出来るものはその場で修繕を行いました。



ボランティア 八重山登山道清掃

4月21日、例年行っている八重山登山道のボランティア清掃を行いました。

皆様が気持ちよく登山・ハイキングして頂けるように倒木や落葉の除去作業をしました。今年の作業は、新入社員の3名を含め4人で行い、全員で頂上までの登山道を清掃しました。頂上からの、気持ちの良い景色を堪能しながら休憩し、下山しました。下山後、入り口の清掃を行い、今年も無事終了しました。3名は、登山、下山と疲れを知らないようで足軽に歩いていました。若さを見せつけられました。



薩摩義士の碑 ~ 平田公園



梅雨時期になると小学校の時に教わった「薩摩義士」のことを思い出します。

宝暦3年に徳川幕府が命じた治水工事で犠牲になった薩摩藩士の慰霊碑が城山町にあります。この事件は「宝暦治水事件」として語り継がれています。何となくうろ覚えでしたので、改めて調べてみたら、先人の苦勞が偲ばれました。ご存じない方に知って頂きたいと思いご紹介いたします。

当時、徳川幕府は「木曾三川」(木曾川・長良川・揖斐川)の洪水に悩まされていましたが、財政難から中々工事が進まず困り果てていました。また、他の大名が力を付けている事に危機感を募らせていた幕府は、琉球との貿易で財力を得ていた薩摩藩主の島津重年を手伝普請に任命しました。その頃の薩摩藩は財力どころか66万石の借金があったのですが・・・この要請に藩士たちは、あからさまな幕府の嫌がらせに「一戦交えるべき」との強硬論が続出したが、財政担当家老の「平田靱負」が「幕府と戦えば、薩摩は戦場となり、罪もない子どもや百姓までもが命を落とす。ならばこの治水事業を引き受け、異国といえど美濃の民百姓を救うことこそ、薩摩隼人の誉れを後世に知らしめ、御家安泰の基となろう」といきり立つ家臣を説得したそうです。その後、総奉行となった平田は約1000名の家臣を伴い美濃へ向かい、道中の大阪では金策に奔走しながら木曾に到着。工事に取り掛かるも幕府の冷遇による「一汁一菜」「酒・魚の禁止」「治水工事の専門職の雇用禁止」や幕府役人の嫌がらせ行為が横行していたそうです。最終的な犠牲者は約90名が亡くなったとの事ですが、このうち54名が幕府に不満を募らせた藩士たちの抗議の自刃との事。残りの犠牲者は過酷な労働環境により発生した疫病(赤痢)による病死だそうです。様々な困難を乗り越え完成した工事は、幕臣たちからも賞賛されるほど見事な出来栄であったようです。工事完了後、平田は薩摩に工事完了の書面を送り、3日後の早朝、莫大な借財と犠牲者を出した責任を負う形で、割腹自殺したとの事。(一説には病死とも)

現在、平田靱負の屋敷があった場所は平田公園となり、平田靱負の銅像があります。また、流域の住民は、この治水工事で洪水に苦しむことが少なくなったことを喜び、工事に携わった薩摩藩士を「薩摩義士」と敬い偉業を讃えたことから、鹿児島県と岐阜県は姉妹県盟約を鹿児島市と大垣市は姉妹都市盟約を結んでいます。なお、岐阜県海津市には平田とともに殉職した薩摩藩士80余名を祭神とする「治水神社」があります。最後に、残された辞世の句を。

「住みなれし 里も今更 名残にて たちぞわづらふ 美濃の大牧」



ちょっと裏話...



この「薩摩義士」を調べている中で、真偽は定かではありませんが、ちょっと良い話がありました。まだ26歳だった藩主 島津重年は参勤交代の途中で現地に立ち寄り、平田靱負から幕府の嫌がらせ行為や疫病の発生などの報告を受け、驚き涙したそうです。藩士達を労う一方、「自分の藩士達が必死になって遠く美濃の地で命がけで働いているのに、自分は安穩と郷里で仕事をしている。心だけでも彼らと共にいたい。財政も逼迫しているのに、自分だけ殿様の食事などできぬ」といって、彼らが帰ってくるまで、彼らと同じ一汁一菜の食事を取り続けていたというのです。このことで元気を取り戻した藩士たちは、腰の刀を鍬に持ち替え再び難工事に取り組んだとのこと。この堤防工事の総延長は約120Kmという、前代未聞の工事を成し遂げ、工事が完成したとき、役人が最終チェックの検分に来て「日の本にこれほどまでの難工事成し遂げたものはない」と激賞したのです。妨害工作を命じ、藩を崩壊させようとした幕府側の人間をもってして、史上最高といわしめたのです。自分たちの地元は一切の利益もないこの治水事業に、どれほどの労力を持って取り組んだか・・・こんな主筋の家の当主だから、平田のような家老がいるし、藩士達も命をかけたのだと思います。

こいのぼり120匹 ~ 花尾町

鹿児島市花尾町の佐竹二郎さんが集落活性化とお孫さんの健やかな成長を願う思いで、所有する休耕田にこいのぼり120匹を揚げたそうです。

昨年10月に初孫が生まれ思い立ち、こいのぼりは自費で購入され、近隣の方から提供して頂きモウソウダケを切り出し設置し、気持ちとしては孫のためと思ったが、通勤時に見ると今日も一日頑張ろうと自分自身も元気がもらえるという気持ちで設置したそうです。

娘さんは、孫のためにこんな大がかりなものを用意してくれてうれしいと笑顔だったそうです。大空に泳ぐ鯉のぼりのように元気に育ってほしい。鯉のぼりには、人生という流れの中で遭遇する難関を鯉のように突破して立身出世して欲しいという願いが込められています。

集落の現状は約30世帯、50人が住んでいるが、ここ数年小学生はいない。集落に子供の声が響かなくなり、寂しい気持ちがある。近くの集落の子供たちも学校帰りや休日に立ち寄ってほしいとおっしゃっていたそうです。・・・余談ですが・・・(;^ω^)

昔、武家には、端午の節句が近づくと玄関先に幟や旗指物などを飾る習わしがあり、江戸中期に町人が真似るようになり、中国の故事「登竜門」にちなんで、幟(のぼり)を鯉の形にしたのが「鯉のぼり」の始まりとされています。中国の黄河上流には激流が連なった竜門と呼ばれる難所があり、そこを登り切った魚は、竜になれるという「登竜門伝説」です。鯉のぼりはこの登竜門伝説にあやかり男の子が様々な困難に打ち勝って大成する立身出世の象徴として飾られます。



たんすの肥やし ~ 上谷口町

上谷口町あいハウジングアリーナ松元(松元平野岡体育館)

松元平野岡健康づくり公園内に、趣のあるお店ができています。元々あった、うどん屋をリノベーションされました。中には、個性的な古道具や古家具が並び、ギャラリースペースでは、空間を活かした展示が好奇心を最高に刺激します。

「誰でもできそうな店じゃ面白くない」と独自の感性で中古品を仕入れ、時には手を加えることで新たな命を吹き込む。コンセプトは“ニューリサイクル”。骨董好きの方にはたまらない品が盛りだくさんです。

持続可能な開発目標SDGsでいう、「12番目の作る責任、使う責任でリユース・リサイクルを行い環境・経済に持続可能な社会」に貢献されています。リユース・リサイクルすることで、環境負荷及び処理費用の削減など良い事ばかりで環境に対しても素晴らしいお店です。

また、併設している喫茶では、スパイスの効いた「欧風カレー」が人気があるそうです。自家製アチャール(野菜の酢漬け)と相性抜群。4月に、お店の中にお花屋さんをオープンされ、切り花、ドライフラワー、鉢物、花束となんでも用意されています。おしゃれな花飾りですので「大切な人への送り物」おすすりめです。住所:鹿児島市上谷口町3395-4 TEL:099-807-2311

